

# はあとふる



## Info. 6 環境の把握

本校では「一人一人がより豊かに学習や生活ができるようになる自立活動の授業づくり（令和7年度）」について校内研修を行っています。自立活動の学習指導要領を基に、研修部で研修ツールを作成し、取り組んでいます。

今回は「環境の把握」についての指導例を紹介します。

(1) 保有する感覚の活用に関すること		自立活動編 P. 73
▲視覚や聴覚への働き掛けに対して明確な応答が見られないことがある。	○玩具を見せたり言葉掛けしたりし、視覚や聴覚の活用を促すような指導をする。 ○細かなステップを追い、視覚、聴覚、手の運動を協調させるような指導をする。	
(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		自立活動編 P. 75
▲特定の音や衣服の材質に強い不快感を示す。	○音が発生する理由や身体接触の意図を知らせるなどして、それらに少しずつ慣れていったりするように指導をする。 ○個々の幼児児童生徒にとって、快い刺激は何か、不快な刺激は何かをきめ細かく観察して把握しておく。	
(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること		自立活動編 P. 77
▲特定の音を嫌がる。	○自分で苦手な音を知り、音源を遠ざけたり、イヤーマフやノイズキャンセルヘッドホン等の音量を調節する器具を利用したりするなどして、自分で対処できる方法を身に付けるように指導する。特定の音が発声する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れられるように指導をする。	
(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		自立活動編 P. 79
▲ものや人にぶつかったり、簡単な動作をまねすることが難しかったりする。	○粗大運動や微細運動を通して、全身及び身体の各部位を意識して動かしたり、身体の各部位の名称やその位置などを言葉で理解したりするなど、自分の身体に対する意識を高めながら、自分の身体が基点となって位置、方向、遠近の概念の形成につなげられるように指導をする。	
(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		自立活動編 P. 81
▲「もう少し」「そのくらい」「大丈夫」など、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難。	○指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材・教具等の工夫を行うとともに、手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるように指導をする。	